

第十回 堅磐事業検討委員会 議事概要

- (1) 日時 平成 30 年 9 月 12 日 (水) 10:30~11:50
- (2) 会場 常陸太田市役所 分庁舎 2 階 203・204 会議室
- (3) 出席者 別紙のとおり
- (4) 議事概要

①出席者の確認

- 7名の委員のうち6名の出席により委員会規約第3条第2項の規定に基づき委員会の成立を報告。

②第九回堅磐事業検討委員会議事概要について【資料1】

- 事務局より資料1に基づき第九回堅磐事業検討委員会議事概要について説明。
- 審議結果
 - 第九回堅磐事業検討委員会議事概要について了承された。

③堅磐地区河道掘削工事の経過について【資料2】

- 事務局より資料2に基づき堅磐地区河道掘削工事の経過について説明。
- 審議結果
 - 堅磐地区河道掘削工事の経過について了承された。

④モニタリング調査結果について【資料3】

- 事務局より資料3に基づきモニタリング調査結果について説明。
- 審議結果
 - モニタリング調査結果について了承された。
 - 委員からの主な意見、質問等とその回答は以下のとおり。
 - ◆ 意見：堅磐地区の河道掘削事業は、サギ類のコロニー保全の成功例であり、取り組みについて積極的に公表し、今後に繋げていけると良い。

⑤H30 堅磐地区河道掘削工事等について【資料4】

- 事務局より資料4に基づきH30 堅磐地区河道掘削工事等について説明。
- 審議結果
 - H30 堅磐地区河道掘削工事等について了承された。
 - 委員からの主な意見、質問等とその回答は以下のとおり。
 - ◆ 意見（欠席委員より）：アユの産卵床について、堅磐地区ではH29年の産卵数は少なかったが、久慈川水系全体では例年通りの産卵が確認されている。
 - ◆ 意見（欠席委員より）：工事中に濁水が本川に流出しないよう配慮してほしい。
 - 回答：ワンド掘削は水面に接しない部分から開始し、最終的に本川と繋げる時に

は濁水が流出しないよう配慮する。

- ◆ 質問：分水路へのアユ稚仔魚の迷入防止は、具体的にどのように防止するのか。
 - 回答：分水路上流側の掘削高を平水位より高くし、普段は分水路に流水が流れ込まないようにすることで、上流側からの迷入を防止する。
- ◆ 意見：干潟については近年茨城県でも減少傾向にあり、新たに干潟を有する湿地環境を創出することはよい取り組みである。湿地、干潟、ワンドの生物相の遷移を、河川水辺の国勢調査に位置づけて調査をお願いしたい。
 - ・ 特定外来生物への留意事項は、的確な判断と思われる。アレチウリは那珂川では繁茂している例もあるが、久慈川では現状では少ない。また、オオフサモについても涸沼川では繁茂している場所があり、久慈川でも侵入する可能性はある。河川水辺の調査で把握してもらいたい。
 - 回答：河川水辺の国勢調査に位置づけて継続的に調査を行う予定。

⑥今後のモニタリング計画について【資料5】

- 事務局より資料5に基づき今後のモニタリング計画について説明。
- 審議結果
 - 今後のモニタリング計画について了承された。

以上

第十回 堅磐事業検討委員会

出欠表

日時 平成30年9月12日(水) 10:30~11:50
 会場 常陸太田市役所 分庁舎2階 203・204会議室
 (9:20~9:50まで現地視察)

(1) 委員

	氏名	所属	出欠
委員	池野 進	日本野鳥の会茨城県 会長	○
	大森 明	茨城県水産試験場内水面支場 支場長	欠
	小菅 次男	茨城生物の会 会長	○
	○武若 聡	筑波大学システム情報系 教授	○
	多田 恒雄	日立市環境審議会 委員	○
	徳永 幸彦	筑波大学生命環境系 准教授	○
	山口 萬壽美	河川水辺の国勢調査(鳥類)アドバイザー	○

敬称略 五十音順、○：委員長

(2) オブザーバー、事務局

	氏名	所属	出欠
オブザーバー	高杉 則行	久慈川漁業協同組合 代表理事組合長	○
	二方 尚美	那珂市 市民生活部 環境課 課長補佐	○
	永田 淳一	日立市 都市建設部 都市整備課 係長	○
	猿田 信彦	常陸太田市 建設部 建設課 副参事	○
事務局	八尋 裕	常陸河川国道事務所 所長	○
	八木 昭稔	常陸河川国道事務所 副所長	○
	伊藤 克雄	常陸河川国道事務所 工務第一課長	○
	高橋 博之	常陸河川国道事務所 工務第一課 河川工務第一係長	○
	椎木 貴敏	常陸河川国道事務所 調査第一課長	○
	秋元 賢一	常陸河川国道事務所 久慈川下流出張所長	○
	大澤 祐二	常陸河川国道事務所 久慈川下流出張所管理第二係長	○

敬称略